



宇宙

Vol.45

●題字は深町正喜氏



熊本県阿蘇の大観望にて 小南達矢氏撮影

理事長メッセージ 「New drug market」

- 大分県病院学会
- 介護教室開催
- はたけ通信
- TDK 労組三隅支部 “愛のかかり火” 募金
- Seiryō Topics
聖涼祭・ケーキ作り・敬老会
- 日田散歩 ③①
酔っ払い御用達
- 水環境委員会報告



New drug market

パーメチャンの村は黒ラフ族の中でも、最も文明の遅れた所だった。顔に刺青をした女達、石を使って鳥を捕る子供たち。

電気も風呂もない、そんな所に、海外は初めてという佐藤悦世（現在 財津）を残し、俺が先に現地を離れる事になった。一人になる悦世は涙を流す。そんな彼女を一人置いてきたことが、かなり重く胸に残っていた。少しでも日本語ができる警察官スリンに、「彼女が4、5日後に一人で帰る予定だ。チェンマイでのバス、ホテル、飛行機の間がとても心配だ。飛行機に乗るまでガードするように。」と依頼した。しかし、言葉が通じたかどうか分からない。第一、彼の任務は村に残った学生達の警備であるから無理だろう・・・何かを渡したかったが何もない・・・とっさに腕時計をはずし彼に受け取ってもらった。その時迎えるバスが来た。

世界最大の麻薬の町メサリアンからバスに乗りチェンマイに向った。約7時間の道中の途中、食堂に寄り飯やお茶を口にした。出発し3時間後、



医療法人 聖陵会 理事長 岩里 正生



2度目の検閲があり、30歳代ぐらいの中国系女性が警察官に連行されバスを降りた。食事をしていると1時間後その女性がパトカーに乗って戻ってきた。途中で警察官を買収し開放されたようだ。早速俺の横に座り、うどんの様なものを注文した。同行した高倉さんは、中国語が堪能で話を始めた。夜一緒に食事をするようになった。かなり危険な話だ。この国で500g以上の麻薬を持っていれば、例外なく死刑だ。直感的に危険を感じ、俺は彼女には高倉さんから「日本の警察官だ。」と紹介してもらった。

夜、3人で食事に行ったが、不思議なことにどのタクシーに乗っても、どこで何を食べても無料だった。只、彼女が右手を上げるだけだ。高倉さんに、くれぐれも彼女にこれ以上近付かないように伝え早めに切り上げた。

朝、高倉さんが彼女を連れて部屋に来た。顔面蒼白、震える手で1枚の書付を俺に見せた。

次号に続く...

大分県病院学会

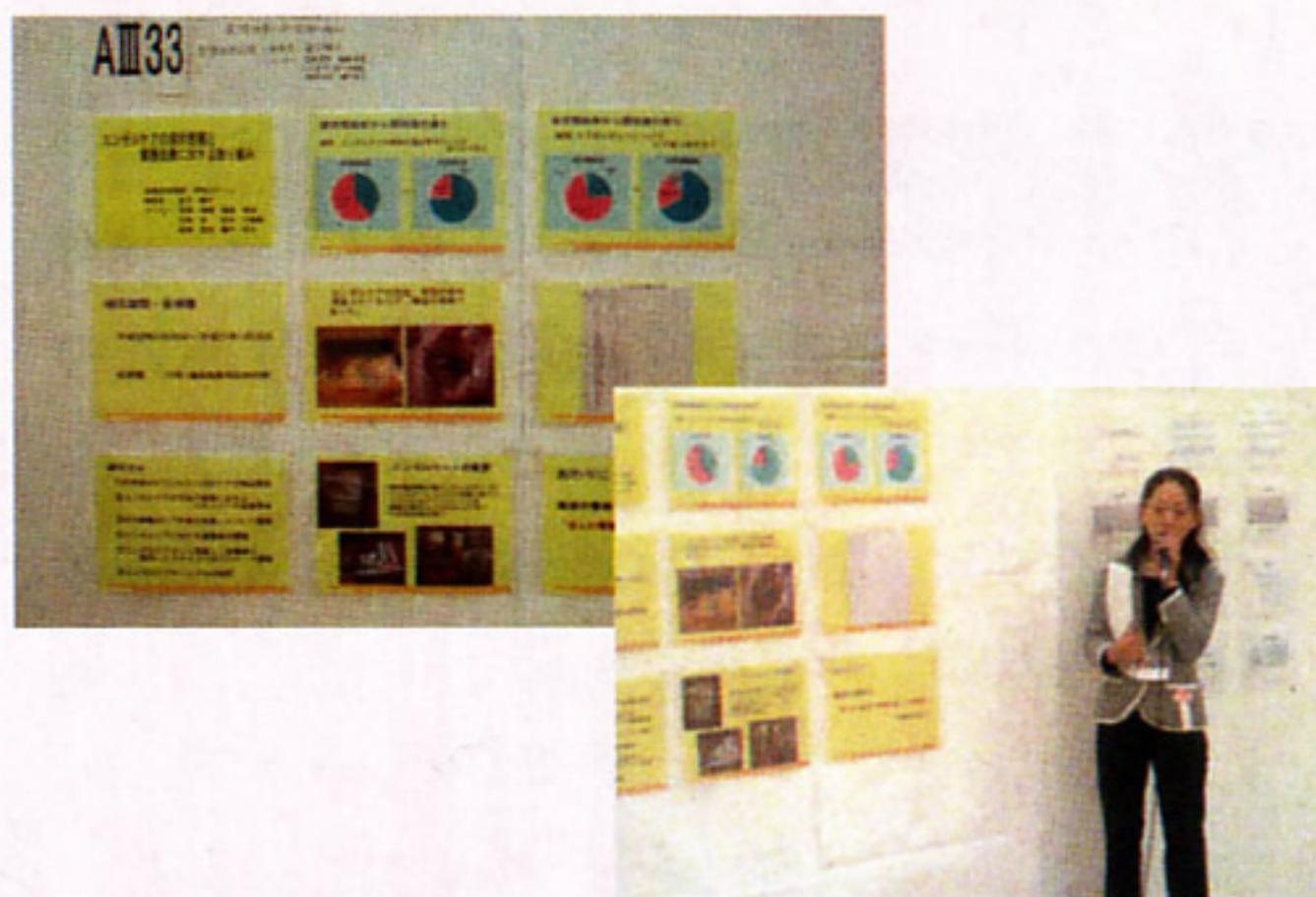
聖陵岩里病院看護部は、6チームに分かれ看護研究に取り組んでいます。

平成21年10月12日に行われた第27回大分県病院学会で、岩里病院看護部は「舌ケアの現状と改善への取り組み」(口演)と「エンゼルケアの現状把握と業務改善に対する取り組み」(ポスター)の2演題の発表を行いました。

私達エンゼルケアのチームは、研究テーマを決定するところから始め、約1年半をかけて研究を行い、今回の演題発表となりました。発表に至るまでには、勤務終了後にチーム内での検討を何度も繰り返し、病院看護部内での予行練習も行いました。

色々なアドバイスをいただいたおかげで、当日はかなり緊張しましたが、2チームとも無事に発表を終える事が出来ました。

今回、私は初めて大分県病院学会に参加し、加えて、ポスター発表も発表者としての参加も初めてでした。他院のポスターを見学し、色使い・文字の大きさ・イラス



トの配置など、視覚に訴えるにはどうすればよいのか参考になりました。また、他院の発表を聴講することで、声の大きさ・話すスピード・表情などの大切さもわかりました。

病院学会に参加したことで、大変貴重な経験をする事ができました。

今後も、病院看護部では様々なテーマの看護研究が行われます。今回の経験を活かし、より良い看護研究・発表へつなげることができればと思います。

岩里病院看護師 金子陽子

介護教室開催

私達 ボランティア委員会が「介護教室」を開催するきっかけとなったのは、岩里正生理事長からの、こんなご提案からでした。

「ボランティアの活動として、独居老人の方や病院を退院した方に対して何か支援ができないか」

その例として、退院後の病院からの送迎や、在宅に赴いての介護指導など…etc.

色々とお案が出ましたが、どれも現実に実行するには困難が多く、またボランティアとして活動するには、できる範囲が限られていると思われました。

そこでまず私達は、在宅で介護に携わっている人や、病院に通院している人、退院している人など・・・聖陵会を利用している方々を主な対象として、介護に対してどんな関心を持っているのか。どんなニーズを抱いているのかを調査する事から始めようと話し合いました。

その第一歩目として、ボランティア委員会スタッフによる「介護教室」の開催を聖陵会の利用者の皆様にポスターなどで呼びかけ参加者を募り、参加して下さった方から、どんな事でお悩みなのか、今後どのような取り組みを実施して欲しいのかといったご意見をいただく事に

しました。

つまり、まずは介護に関する会を開いてみて、来てく



ださった方から直にご意見を伺おうと思ったのです。

参加した方は2名のみでしたがその分、密に介護指導を行う事ができ、とても有意義な会となりました。

また、この会のもう一つの目的でもある、参加者からのご意見をいただく事もできました。

その中には、「食事介助や排便のおむつ交換、同じことを繰り返す相手に対する接し方などを習いたい。」「介護者に安心感を与える介護は難しい。」といった、貴重なご意見をいただきました。

こういったご意見を参考にしながら、今後も皆様のニーズに基づいた活動を展開していきたいと思っております。

ボランティア委員会 石田こずえ

はたけ通信

「畑に行って野菜を作りたいね～」日常会話の一言。この事から、ストリーム入所者、職員による畑作りが始まりました。畑作りの名人から鍬を持った事の無い職員まで数人が集まり、「畑仕事し隊」が結成されました。昨年の秋から作り始め、ブロッコリー、大根、キャベツを作り、今秋は、かぼちゃ、さつまいも、里芋を作りました。

借りた畑は、草がぼうぼうの荒地で、まずは草むしりをして、その後鍬で耕しました。当然ながら鍬なんて使った事のない職員達・・・あたふたしながらやっている中、「どら、貸してみない!!」と入所者の方に鍬を取り上げられ、入所者の手裁きの良さに皆びっくり!! あっという間に畑は耕され、畝も出来上がり見事な畑が出来ました。

大根、ブロッコリー、キャベツを植えて、時々草をむしり、水をやり大切に育てて見事な野菜



が実りました。ストリームの厨房で調理して貰い、入所者の晩ご飯と一緒に出して貰いました。皆さん「美味しい!」と言って、あっという間に食べてしまいました。



今秋は、諸事情で畑の場所も変わり、気持ち新たに、畑作りを行いました。

草がぼうぼうでしたが、新兵器「耕うん機」の登場で楽に耕す事が出来ました。里芋、かぼちゃ、さつまいもを植えましたが、夏の暑さで水やりを疎かにしてしまい、野菜達も夏バテ気味でした。里芋は残念ながら実りませんでした。かぼちゃ、さつまいもは、大豊作!! 特にさつまいもは、とても大きいのが実っており、入所者も職員も子供の頃の様に夢中で掘っていました。

入所者も高齢となって、出来る事は限られてはいますが、それでも一生懸命に作業する事は、とても素晴らしいと思います。自分たちも見習って、これからも「畑仕事し隊」を盛り上げていきたいです。

ストリーム三階 森 辰男

TDK 労組三隅支部“愛のかがり火”募金

さる 10 月 19 日支部長渡辺一夫様他 2 名の方により、社員の皆様の温かいご好意を「銀河」へ運んでいただきました。貴労組では、年 2 回のボーナス時に“愛のかがり火募金”と称し募金を呼びかけ、長年にわたり日田市内の福祉施設に毎年品物を寄贈されているとのこと。有難いお申し出を遠慮なくお受けし、扉が壊れ困っていたおもちゃ箱とデジカメをリクエストしました。大事に



使わせて頂きます。社員の皆様、本当にありがとうございました。

こども発達・支援センター「銀河」高倉ひとみ



聖涼祭

8月1日に聖陵ストリームにて第12回聖涼祭を行いました。8月1日が水の日という記念日でもあり、今年度の聖涼祭は「自然と生きる～きれいな水で花を咲かせよう～」をテーマとして聖陵会水環境・施設美化・ボランティア各委員会・ストリーム環境委員会・入所者野菜栽培などの活動の様子を展示致しました。また、屋外では、屋台・盆踊り・抽選会等の様々なイベントも行う事が出来ました。限られた時間ではありましたが、事故等もなく、無事に聖涼祭を行えた事

に大変嬉しく思っております。また、たくさんの方々に来て頂いたことに感謝致しております。

夏祭り実行委員長 平井 直之



ケーキ作り

9月19日にストリームの2階、3階の入所者の方達でケーキ作りを行いました。

スポンジは最初から用意されているものでしたが、皆さんで順番に生クリームをぬったり、デコレーションには、栗、小豆を使用し抹茶をふりかけ和風のケーキが仕上がりました。

途中、はみ出した生クリームを舐めてみたり、、、つまみ食いしてみたり、、、と笑いや色々なハプニングもありましたが、まさに、手作りケーキ!!と、いった感じの素敵なケーキが出来上がり皆さんで、

美味しく頂きました

作る楽しみに、食べる楽しみ、皆さんに喜んで頂けたのではないかと思います。

ストリーム2階 財津恭介



敬老会

9月27日、聖陵ストリームタプルームにて、敬老会を行いました。

慰問には「日田文化センターの会」の皆さんに来て頂き、大正琴の演奏を行って頂きました。入所者の皆さんからは、手拍子も聞かれ一緒に歌を歌われている方もいました。皆さん、とても喜ばれていた様で入所者の一人の方が「是非お礼の言葉を言いたい!」とマイクを持ち、お礼の言葉をのべました。

その後9月の誕生者の紹介を行い、敬老の日の記念品贈呈を行い

ました。入所者の方全員、この敬老会を喜んで頂いた様子で大変良かった。と感じました。

来年も敬老会を予定していますので、入所者の方々が、健康で元気に過ごせる様にスタッフ一同願っております。

ストリーム3階 松岡重喜



日田漫歩⁽³¹⁾

「酔っ払い御用達」

梶原義則



いや、手軽で便利なものだ、と感心した。日田発（片道）は実に1日50本。昼間の1時間単位で見ると、3本。日田と福岡・天神、福岡空港などを結ぶ西鉄高速バスのことである。日田に来て9年半。初めて9月に2回、乗った。通常はマイカーだが、バス選択には理由がある。会食のためだ。当然、酒が入る。

一つは、福岡市主催の「福岡アジア文化賞」を受賞した中国の現代美術家、蔡国强さん＝ニューヨーク在住＝との内輪の会食。中国が「国の威信」をかけた昨夏の北京オリンピック開会式で、ものすごい花火パフォーマンスに驚いた人も多かったのでは。その演出者が蔡さんである。火薬や花火を用いる「壮大な野外プロジェクト」に代表される独創的な手法、中国の伝統文化や世界観に根ざした表現で知られている。世界を飛び回る忙しい日々だ。

頭髪を刈り込み、チベット僧のような風貌。年齢は50すぎだろうか。話が面白い。

なかでも秀逸なのは、99年にオーストラリア

であったアジア太平洋トリエンナーレでの「沈没事件」。ブリスベン川の橋上は、火薬に点火した蔡さんの「青いドラゴン」を見ようと数千人の観衆で鈴なり。ところが、蛇行しながら遡上してくるはずのボート99隻はついに現れなかった。実は、最後尾のボートが転覆、沈没し、いもづる式に全部が川底に沈んでいった。「鉄製のボートを固定して縦列につないだ。大失敗でした」と、しきりに照れた。何やら中国・三国時代の「赤壁の戦い」を思わせる。

もう一つは、東京の友人2人の歓迎の宴。しっかり飲み、中洲で放歌高吟し、間もなく午前様。慌てて零時8分、天神発に飛び乗った。車内は、赤い顔が何人も。で、悟った。「なるほど、最終便は酔っ払いのためにある！」



バスターミナルの西鉄高速バス

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

第14回リバーフェスタ in みくま川 リバーフェスタに参加して

去る8月30日(日)に、亀山公園周辺の三隈川で行われた、第14回リバーフェスタに参加しました。

昨年のえひめAIの配布に続き、今年は里山植林班の活動の様子を展示し、実行委員の方の計らいで、来場者の皆さんの前で、紹介することができました。

天候にも恵まれ、普段、川で遊ぶことの少ない子供達の歓声が絶え間なく聞こえ、参加した職員も一緒になって童心に返り、楽しむことのできた一日になりました。



来年も、水環境委員会の活動報告ができるようにしたいとも思います。実行委員の方、並びに参加された各団体の方、大変お世話になりました。

水環境委員会 副委員長 石松 義彦

編集後記

暑い夏も終わり、朝晩と少し寒さを感じる季節になってきました。秋といえば、勿論、食欲の秋！梨にブドウに美味しい果物が実ります。でも、食べ過ぎには注意です！！スポーツの秋という事も忘れてはいけませんね。ウォーキングをしながら、紅葉狩りなんかに行きたいと思ってます。



医療法人 聖陵会

■ホームページ <http://www.seiryoku.or.jp/index.html>
■E-mail seiryoku@seiryoku.or.jp

救急指定 聖陵岩里病院

介護老人保健施設 聖陵ストリーム

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達・支援センター銀河

聖陵花月クリニック

アンコール小児病院(カンボジア)